

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号: 3

企画名			
人力飛行機の機体展示とバルサ飛行機教室			
実施日			
大学祭当日 (2025 年 11 月 1 日 10:00-17:00、2025 年 11 月 2 日 10:00-17:00)			
実施場所			
東体育館及び E6 製図室			
企画代表者の氏名、所属			
氏名: 大河内蓮 所属: 工学部 第一類			
構成員の氏名			
大河内蓮	坂本 寛樹	田村 健晋	濱本 大翔
山本勇希	新宮 瑛人	藤田 海希	藤原 孝成
高橋由衣	松本 悠世	島田 拓明	平間 力
木下煌士	柳沢 晃生	雨宮 翼	
指導的立場の教員氏名 ※報告内容をご確認の上、ご署名または記名・押印をお願いします。			
岩下英嗣(教授): 先進理工系科学科研究科 輸送・環境システムプログラム 			
企画の目的及び内容			
本企画は、人力飛行機の機体展示やバルサ飛行機の製作体験を通して、多くの方々に人力飛行機自体やその製作活動への興味や関心を高めて頂くことを目的としている。私達が日々取り組んでいるものづくり活動の魅力を発信し、人力飛行機という分野の面白さや奥深さ、そしてそこに込められた技術や情熱を広く知ってもらうことを目指している。特に、実際の飛行機体を間近でご覧頂くことで、普段の生活では触れる機会の少ない人力飛行機のスケールの大きさや詳細な構造、繊細な作りを直に体感して頂き、飛行機やものづくりの世界の魅力をより深く理解してもらう狙いがある。 上記の目的を達成するために、本企画では具体的に 3 つの体験コンテンツを用意した。1 つ目が完成間近の人力飛行機の実機展示、2 つ目がバルサ材を用いた手投げ飛行機製作体験教室、3 つ目がフライトシミュレーター体験である。飛行の仕組みを遊びながら学べる機会を提供した。こうした体験を通じて、参加者に人力飛行機の魅力を五感で感じてもらい、未来の技術者や航空分野の担い手が生まれるきっかけとなることを期待している。			
来場者数			
企画①: 人力飛行機の機体展示(フライトシミュレーター含む) 248 名 (1 日目 142 名、2 日目 106 名)			
企画②: バルサ飛行機教室 25 名 (1 日目 15 名、2 日目 10 名)			
主催・後援団体 (外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模)			
今回の展示・バルサ飛行機教室の企画自体は本活動グループが大学の企画として行うものである。ただ、展示する機体は来年の鳥人間コンテスト* に出場させたい機体であり、そのコンテストの主催団体は読売テレビ・Iwatani で TV 放送は全国規模である。 *鳥人間コンテスト: 「鳥人間コンテストは、『空を飛びたい』という人類の夢をかなえるべく、バードマンたちが、自ら作り上げた飛行機を操縦し、その飛行距離などを競い合う大会である。人力のみで空を飛ぶ」 (読売テレビ 鳥人間コンテスト 2025 公式サイトより)			
活動の内容 (準備, 広報活動, 当日の様子等)			

【人力飛行機の機体展示】

大学祭の開催日に合わせて、2 日間にわたり本企画を実施した。会場となった東体育館では、人力飛行機の実機展示を行い、来場者が普段触れることのない機体を間近で観察できる貴重な機会を提供した。また、ただ展示するだけではなく、パイロットの視点を実際に体感していただけるよう、フライトシミュレーターコーナーも設けた。来場者は飛行時の視界や操縦席の雰囲気を感じることができ、多くの方が興味深く体験していた。

広報活動としては、事前の SNS 発信による告知に加え、大学祭当日には会場周辺での呼び込みやチラシ配布などの対面での広報も行った。その結果、幅広い年代の来場者に足を運んで頂き、普段この分野に馴染みのない方々にも人力飛行機の世界に触れてもらうことができた。

当日は、「思っていた以上に大きかった」「意外と軽いんだね」といった驚きや感嘆の声が多く聞かれた。

【バルサ飛行機教室】

バルサ飛行機製作教室を大学祭の 2 日間にわたり実施した。本教室では、薄く軽量のバルサ材を使用し、スパン長 400mm のオリジナル飛行機を参加者自身の手で製作していただいた。初めてものづくりに取り組む方でも楽しめるよう、組み立て手順を丁寧に説明し、スタッフが個別にサポートしながら進めた。

事前準備として、レーザーカッターによるバルサ材の切り出し、作業用マットの印刷、3D プリンターを用いたマウント部品の製作、説明書の作成、そしてそれら部品を製作キットとして 1 セットずつに梱包する作業を行った。これにより、参加者がスムーズに製作に取りかかる体制を整えた。

当日の作業時間は約 1 時間であった。細い部材を慎重に扱いながら瞬間接着剤で固定する工程に苦戦する姿も見られたが、組み上がった飛行機を手にした参加者の表情は明るく、達成感に満ちていた。完成後には体育館内の広いスペースで飛行体験を行い、参加者はエルロンと呼ばれる翼端部品の微調整しながら飛距離や軌道を改善しようと試行錯誤していた。うまく飛んだ際には歓声が上がり、思いどおりに飛ばすために工夫を重ねる姿が非常に印象的であった。

(裏面に続く)

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」 実施報告書 (裏面)

アンケートの結果（来場者にアンケートを実施した場合のみ）
アンケートは実施しておりません。

成果・課題

成果

【人力飛行機の機体展示】

「思っていた以上に大きかった」「意外と軽いんだね」といった驚きや感嘆の声が多く聞かれた。こうしたリアルな反応を得られたことにより、人力飛行機の製作方法や機体のスケール感、その繊細さや工夫を直接伝えるという目標は達成できたと感じている。来場者が実際の機体に触れ、飛行の仕組みや製造技術に関心を抱いてくださったことで、人力飛行機の魅力を広めるという本企画の意義が十分に果たされたと考えている。

【バルサ飛行機教室】

本イベントは、単に模型を製作するだけにとどまらず、試行錯誤しながら課題に向き合う姿勢や、ものづくりの達成感を体感できる貴重な機会となった。参加者にとって、楽しみながら創造するプロセスを経験し、ものづくりへの興味や関心を高める場となったと考えている。

課題

バルサ飛行機製作体験教室において、約 1 時間の作業時間の後半に集中力が続かない子が多かったこと、さらに作業スピードに個人差が出たことで進行にばらつきが生じた点が課題として挙げられる。

実施風景（写真）



Fig. 1 機体展示会場の様子



fig. 2 フライトシム体験の様子



Fig. 3 バルサ飛行機教室の様子



fig. 4 バルサ飛行機を飛ばす様子

【提出方法】 指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください。

E-mail でも受け付けます。

【提出先】 工学系総括支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)